

PRESS RELEASE



名古屋証券取引所

NAGOYA
STOCK EXCHANGE

名古屋市中区栄 3-8-20 〒460-0008
Tel 052-262-3171 www.nse.or.jp

2022年9月28日

各 位

9月社長記者会見

1. 東証の市場機能強化に対する名証の対応方針について <資料1 参照>
2. 「名証 I R エキスポ 2022」の開催結果について <資料2 参照>
3. 第13回名証株式投資コンテストの開催について <資料3 参照>

以 上

2022年9月28日
株式会社名古屋証券取引所

東証の市場機能強化に対する名証の対応方針について

東京証券取引所においては、市場を巡る環境変化や多様化する投資家のニーズに対応するとともに、レジリエンスや市場利用者の利便性、国際競争力をさらに高めていく観点から、2024年度後半の株式売買システム(東証 arrowhead4.0)の更新に合わせ、立会時間延伸(15時30分まで)並びに終値形成におけるクロージング・オークションの導入がされる方向となった。

上記状況を受け、各市場関係者へのヒアリング及び市場運営委員会での協議を踏まえて、当取引所として、立会時間については現行通りとし、クロージング・オークションについては、東証と同時期に導入することを前提として、今後、実施に向けた具体的な準備を進めて行くこととする。

記

1. 立会時間について

市場関係者、特に投資信託などの立会終了後の後続業務への影響等を踏まえ、現行どおり(15時30分まで)とする。

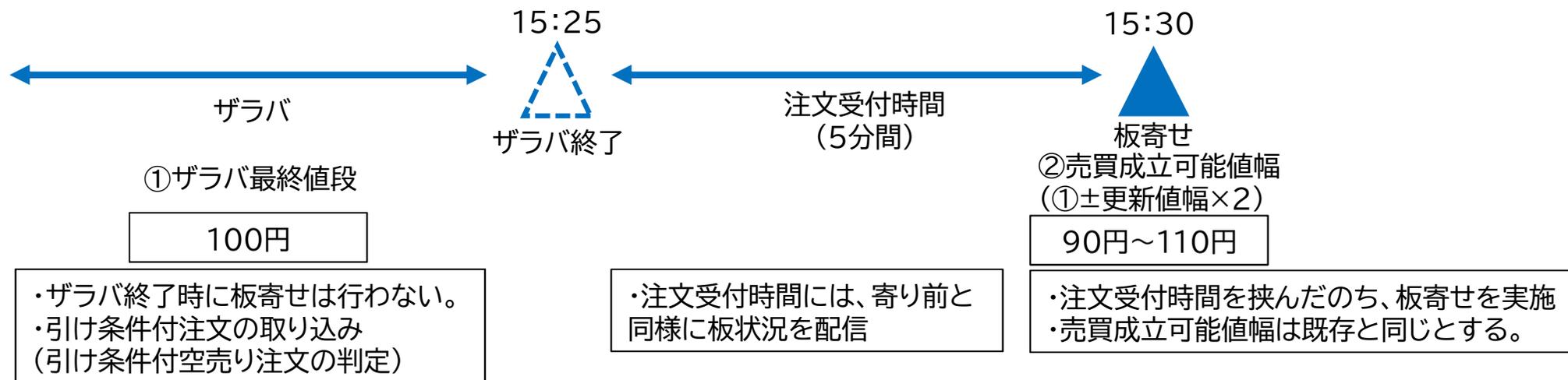
2. クロージング・オークションについて

投資信託等において、株価指数等に連動する運用成果を目指すパッシブ運用の進展によって、大引けでの価格形成ニーズが高まっているため、終値形成の透明性向上・多様な投資家の参加による流動性向上を目的にクロージング・オークション(終値決定にあたり5分間の注文受付時間を設定)を導入する。

以上

【参考】クロー징オークションの制度概要(予定)

| 項目 | 内容 | 備考 |
|------------------|------------------------|---|
| 注文受付時間 | ・ 5分間 | ・ 価格の連続性への影響を加味し、5分間とする。 |
| 売買成立可能値幅 | ・ 更新値幅の2倍 | ・ 売買成立可能値幅は現行通り(2019年に改正済み)。 |
| 引け条件付注文 | ・ ゼラバ終了時に取り込む | ・ 引け条件付空売り指値注文の判定についてもゼラバ終了時に行う。 |
| 売買成立可能値幅外で対当する場合 | ・ 売買成立可能値幅の上下限で約定処理を行う | ・ 約定機会の拡大のため、売買成立可能値幅外で対当する場合においても、その上下限の値段で、約定処理を行うことにより、終値での取引の機会を確保する。 |



- ・ 大引け前に一定の注文受付時間を設け、この間の注文状況(板情報)が配信されることで、終値形成の予見可能性が高まると同時に、より多くの注文を集約して価格形成することで、より需給を反映した価格形成となる。
- ・ この間の全ての注文が大引けで取引されることで、大引けで取引したい投資家の需要に応えることができ、投資家の利便性向上につながる。

2022年9月28日
株式会社名古屋証券取引所

名証「IRエキスポ2022」の開催結果

- ◆ 日 時 9月9日(金) 10:00~17:00
9月10日(土) 10:00~16:30
- ◆ 場 所 名古屋市中小企業振興会館 吹上ホール
- ◆ 出展企業数 100社(上場企業83社+証券会社等17社)
- ◆ 来場者数 5,400名
- ◆ 概 況

来場者数は、2日間合計で5,400名となった。コロナ禍の開催ということもあり、前回の2019年と比較して3,100名の減少となった。

(内訳：9日2,600名、10日2,800名)

出展企業の担当者からは「来場者数が前回より減ったと聞いたが、ブースは大盛況だった。」「ブースで話を聞く投資家も自社を詳しく調べている方が多く、自社をよく理解していただきとても満足している。」などの声を頂戴し、概ね来場者数減少の影響を感じさせないような高評価であった。

また、出展企業に関してはコロナ禍で出展を控えた企業があった一方で、新規上場企業を中心に初出展企業が16社と大幅に増加した。

(前回2019年の初出展企業は4社であった。)

開催にあたっては十分な感染対策を実施した。発熱者等の会場への入場防止、会場内での常時マスク着用の義務化、会場内の換気、手指消毒の徹底といった基本的な感染対策はもちろんのこと、出展ブースの間隔や通路の幅を例年より広くするとともに、著名講師の講演会場を第1ファッション展示場に移動するなど、密を避けるためのスペース確保の対策も講じた。

会期中は大きなトラブルもなく、無事に終了することができた。

以 上

【ご参考：場内写真】

名証 IR エキスポ会場（吹上ホール）全体風景



企業ブースでの自由面談の様様



第1ファッション展示場での講演会



＜主な感染対策＞

入場時の検温



テーブル上の仕切り板



会場内換気のための大型扇風機を設置



第 13 回名証株式投資コンテスト概要

1. 目的

名証に上場している「株式」と「ETF」を投資対象としたバーチャル取引形式のコンテストを今年もインターネット上で実施します。

当コンテストは、若年層の金融リテラシー向上及び金融経済教育の充実の一助となることにより重点を置く目的で、参加対象を学生に限定しています。参加する学生にとっては、株式投資に関する知識の向上のみならず、就職活動前に将来目指すべき企業を知るというメリットがあります。

2. 実施要領

| 項目 | 内 容 |
|------|--|
| 実施期間 | 2022 年 10 月 27 日(木) ~ 2022 年 12 月 5 日 (月) |
| 参加要件 | インターネットに接続できメールアドレスを保持している学生。(注) |
| 参加方法 | 専用ページから ID・パスワードを登録。 |
| 競争方法 | 参加者は「個人戦」と「チーム戦」のどちらかを選択。 「個人戦」は仮想元手資金 300 万円を幾らまで増やせたかを競う。 「チーム戦」は元手資金に対する収益率のチーム平均で成績を競う。 期間中、直前の終値で毎日売買可能。 株式と ETF の全銘柄対象だが、単独上場銘柄を最低 1 回以上売買しなければならない。 |
| 結果発表 | 12 月中旬に成績発表し、12 月下旬に表彰式を実施 (予定)。 |
| 賞 品 | 成績上位者にギフト券を進呈。 |
| 特記事項 | 当取引所は、名古屋学院大学との連携講座 (寄付講座) を開講しており、受講する学生は当コンテストに参加することとなります。 |

(注) 当コンテストは中学生以上の学生が参加可能です。

以 上

<参考1>最近5年間における投資コンテスト参加状況

| | 個人戦 | チーム戦 | チーム戦参加学校数及びチーム数 |
|-------------|-------|------|---------------------------|
| 第8回(2017年) | 668人※ | 526人 | 26大学、1高等学校、136チームが参加 |
| 第9回(2018年) | 898人 | 540人 | 23大学、2大学院、2高等学校、154チームが参加 |
| 第10回(2019年) | 805人 | 486人 | 25大学、1大学院、2高等学校、133チームが参加 |
| 第11回(2020年) | 756名 | 396人 | 19大学、2大学院、3高等学校、108チームが参加 |
| 第12回(2021年) | 857名 | 332人 | 21大学、2高等学校、89チームが参加 |

第12回名証株式投資コンテスト全参加学校

個人戦の部 80校 チーム戦の部 37校

総参加学校数 103校 (5大学院、76大学、12高等学校、7中学校、海外3)

愛知・愛知学院・愛知教育・愛知淑徳・会津・青山学院・麻布・秋田・愛媛・追手門学院・大分・大阪経済・大阪国際工科専門職・岡山理科・学習院・神奈川・金沢・関西・北里・岐阜・岐阜大学院・岐阜聖徳学園・京都・京都華頂・京都産業・京都府立・近畿・金城学院・九州・慶應義塾・慶應義塾大学院・工学院・高知・神戸・國學院・滋賀・静岡産業・上智・椋山女学園・星城・専修・創価・大同・千葉工業・中京・鶴見・帝塚山・東海・東海学園・東京・同志社・東北・東北学院・東洋・鳥取・豊橋技術科学・長崎・名古屋・名古屋大学院・名古屋市立・名古屋市立大学院・名古屋外国語・名古屋学院・名古屋学芸・名古屋商科・南山・日本・一橋・一橋大学院・佛教・北陸・北海道教育・北海道情報・三重・名桜・山口・横浜国立・名城・立教・立命館・早稲田・愛教大附属高校・熱田高校・京都成章高校・桜台高校・椋山女学園高校・東海高校・名古屋大学教育学部附属高校・半田高校・半田商業高校・東葛飾高校・名城大学付属高校・横須賀高校・愛知中学・岐阜大学教育学部附属中学・光陵中学・札幌開成中学・半田中学・三重大学教育学部附属中学・守山北中学 他 海外3校

※ 第8回の個人戦の参加人数は学生のみ、第8回まで個人戦は一般投資家も参加可能としていたが、第9回より参加者を学生に限定した。(なお、第8回の一般投資家も含めた個人戦の全参加人数は1,341名)

<参考2>最近5年間における学生対抗チーム戦順位

| 順位 | 2017年(第8回) | 2018年(第9回) | 2019年(第10回) | 2020年(第11回) | 2021年(第12回) |
|----|------------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 1 | 岐阜聖徳学園大学 | 広島大学 | 國學院大學 | 國學院大學 | 金城学院大学 |
| 2 | 南山大学 | 國學院大學 | 國學院大學 | 國學院大學 | 名古屋学院大学 |
| 3 | 一橋大学 | 國學院大學 | 金城学院大学 | 愛知学院大学 | 金城学院大学 |
| 4 | 一橋大学 | 東京工業大学 大学院 | 一橋大学 | 金城学院大学 | 名古屋学院大学 |
| 5 | 金城学院大学 | 金城学院大学 | 金城学院大学 | 帝塚山大学 | 学習院大学 |

<参考3> 昨年の表彰式の様子

